

[ポインセチアの商品性向上]  
品種選択による切り花長の改善

矢沢宏太  
(江戸川分場)

---

【要 約】苞葉外反性ポインセチア「バレンタイン」は、「ウインターローズアーリーレッド、ジェスターレッド」よりも収量・花保ちも含めた品質に優れ、切り花用に適した品種である。

---

【目 的】

江戸川区内でポインセチア切り花生産に用いられている主要品種は、「ジェスターレッド、ウインターローズアーリーレッド(以下ウインターローズ)」である。しかし、ウインターローズの樹勢は弱く、7月中旬以降(アサガオの出荷終了後)の定植では、目標とする切り花長と採花本数(50cm以上、5本/鉢以上)を得られない。そこで、「ウインターローズ」と同様な苞葉外反性品種である「バレンタイン」を導入し、代替品種としての利用可能性を評価する。

【方 法】

「バレンタイン、ウインターローズ、ジェスターレッド」を用いた。定植用土は赤土:腐葉土:無調整ピートモス=1:1:3(容積比)に過磷酸石灰3kg/m<sup>3</sup>、苦土石灰0.6kg/m<sup>3</sup>、マグアンプK(細粒)5kg/m<sup>3</sup>混和したものとし、購入した発根苗を5号鉢に鉢上げした。摘心は9~11節目のソフトピンチ、追肥は全て液肥(ピーターズ15-5-25PL;500倍、着色開始以降はピーターズ10-30-20;500倍+大塚2号(N11, Ca16)2000倍)によった。9月以降の最終栽植密度(鉢間隔)は株間18cm、列間23cm。苞葉の着色完了期をもって採花開始期とし、着色完全かつ切り花長50cm以上の採花茎を上物とした。栽培管理・調査の日程は表1のとおり。栽培期間中の温度管理は、低温と慣行の2区(図1)とした。栽培は江戸川分場内ガラスハウス、花保ち調査は表3、4に示す4因子・合計24個の試験区を設け、設定気温25℃(平均実測値23.5℃)、相対湿度43~54%、12時間人工日長の空調室内、水道水のみを溶液(適宜一斉交換)として実施した。

【成果の概要】

- 1) 収穫までの各調査項目に関し、各品種とも低温区と慣行区との間に顕著な差を認めなかった(表2)。
- 2) 「バレンタイン」の採花開始期、総採花本数は「ウインターローズ、ジェスターレッド」とほぼ同様であった。「ウインターローズ」では上物をほとんど採花できなかったのに対し、「バレンタイン」では目標に近い採花が可能であった(表2)。
- 3) 「バレンタイン」では、側枝の折損、根ぐされ発生を全く観察しなかった。その他調査項目に関しても、「バレンタイン」が「ウインターローズ、ジェスターレッド」に劣る点を認めなかった(表2)。
- 4) 「バレンタイン」の花保ちは他の2品種より優れた。また、栽培期間中の温度管理、採花から想定出荷までの処理方法の違いは、花保ちにほとんど影響しなかった(表4)。
- 5) 以上より、本試験では「バレンタイン」の定植日が早く、液肥施用回数も多かったが、この点を考慮しても「バレンタイン」は「ウインターローズ」よりも切り花用として適している。

表1 栽培管理歴と調査日(低温区・慣行区共通)

品 種	供試株数	管理作業実施時期(月日)			調査時期(月日)	
		鉢上げ	摘心	液肥施用	採花調査	花持ち調査
バレンタイン	10	7/20	7/27	8/1~11/9(10回)	12/3~	12/5~
ウインターローズ <sup>a</sup>	10	7/27	8/6	8/10~11/9(9回)	12/3~	12/5~
ジェスターレット <sup>a</sup>	10	7/27	8/6	8/10~11/9(9回)	11/29~	12/5~

表2 生態的特性と切り花の収量・品質

品 種	温度管理方法	調査株数(鉢)	採花開始期(月日)	上物採花本数(本/鉢)	総採花本数(本/鉢)	折損枝数(本/鉢)	平均切り花長(cm)	着色部径(cm)	採花茎節数(個)	採花茎最大径(mm)	採花茎主茎径(mm)	根ぐされ株数(鉢)
	慣行	10	11/24	4.2	4.8	0.0	68.1	10.2	31.6	65	115	0
ウインターローズ <sup>a</sup>	低温	10	11/24	0.0	5.4	0.0	35.8	9.2	24.3	65	108	0
	慣行	10	11/22	0.2	4.6	0.2	40.2	9.1	23.6	64	96	0
ジェスターレット <sup>a</sup>	低温	10	11/21	3.0	5.0	1.6	50.6	17.1	20.6	78	102	0
	慣行	10	11/22	3.5	5.5	1.3	49.8	18.4	19.5	69	94	1

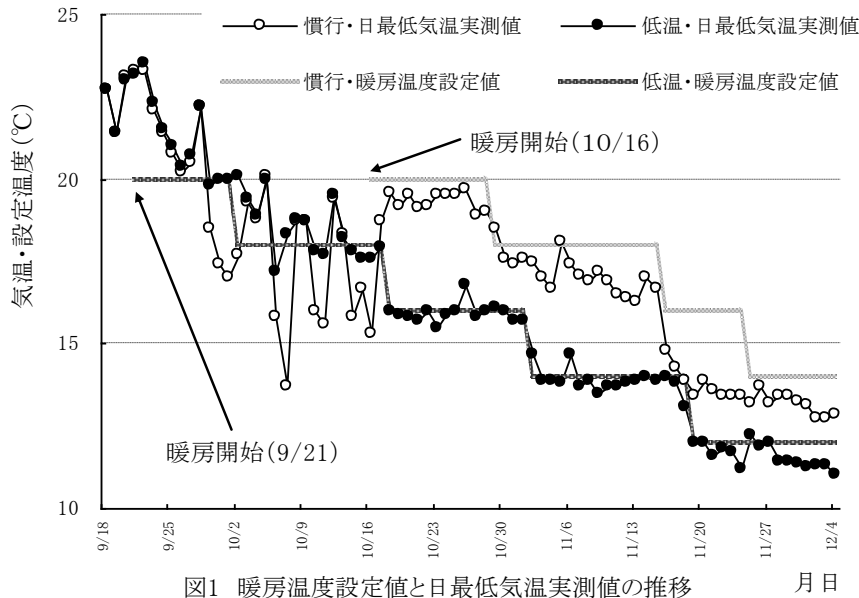


図1 暖房温度設定値と日最低気温実測値の推移 月日

表3 採花茎切り口洗浄と想定出荷の具体的処理方法

試験区	切り口洗浄	想定出荷 <sup>a</sup>
熱湯 +バケツ	切り戻し直後の切り口を沸騰水中に5秒	左の処理後、そのまま無暖房の室内に20時間放置(バケツ出荷を想定)
熱湯 +箱	間浸漬後、水温約9°Cの水道水に移す。	左の処理30分後、水から上げ、段ボール箱に入れ無暖房の室内に20時間放置(箱出荷を想定)
水 +バケツ	切り戻し直後の切り口を水温約9°Cの水道水に直接浸漬。	左の処理後、そのまま無暖房の室内に20時間放置(バケツ出荷を想定)
水 +箱		左の処理30分後、水から上げ、段ボール箱に入れ無暖房の室内に20時間放置(箱出荷を想定)

a) 放置した室温は最高20.4°C, 最低6.1°C, 平均10.5°C

表4 花保ちに対する各因子の影響解析(数量化I類)

因子	水準・カテゴリ	調査本数(本)	花保ち(日)	カテゴリ数量	偏相関係数
品 種	バレンタイン	95	16.4	4.089	0.7708
	ウインターローズ <sup>a</sup>	86	10.2	-2.148	
	ジェスターレット <sup>a</sup>	86	10.4	-1.941	
温度管理方法	低温	113	12.6	0.216	0.0899
	慣行	154	12.1	-0.216	
切り口洗浄法	熱湯	136	12.1	-0.255	0.1063
	水	120	12.6	0.255	
想定出荷法	箱	134	12.7	0.332	0.1377
	バケツ	123	12.0	-0.332	
全 体		267	12.3		